

32【街の散策からの気づき発見】

一宮二社の鷺神社・鷺神社 散策

会員 K.T.

浄春院ではお墓問題の思索になった。禅語の「生死事大」には続きがある。「生死事大(ししょうじだい)無常迅速(むしょうじんそく)各宜醒覚(かくぎせいかく)慎勿放逸(しんもつほういつ)」という。(生きる・死ぬは一大事、この世の物事には常はなく、時間は直ぐに過ぎ去ってしまう。しっかり目をさまし、無駄に時を過ごすことのないように)、という教えだ。いずれ行く道なので、終活の課題の一つにはなるが、わからない思索は保留し、初心の街の散策に戻ることにした。さて、浄春院の壁の向こう側に鳥居が見えた。境内を出て、神社に向かう。この小さな境内には、二つの神社が並んで建てられている一宮二社の神社だ。左右に各々碑がある。拝殿に向かい左側の「鷺神社拝殿修復記念碑」には、

「江戸時代後期に記された「新編武蔵風土記稿」小淵村の項に「百余尊権現社村の鎮守なり、祭神詳ならず」とあるのが当社であり、現在は「国常立命」を奉斎している。明治元年(1868)の神仏分離までは小淵不動院の支配が確認されている。また、この機に社名を「鷺神社」と改め、明治四年(1871)には小淵村村社となり、氏子からは「小淵の鎮守様」として親しまれている。明治二十二年(1889)に小淵村は他の六村と合併し「幸松村」となったため、当社は大字小淵の総鎮守となった。当社本殿は、一宮二社で、拝殿の中央を板壁で仕切り、向かって左側が春日部市小淵の「鷺神社」、右側が杉戸町本郷の「鷺神社」となっている。全国でも大変珍しい様式である。(後略)平成二十九年(2017)一月吉日 氏子総代」とある。鷺神社のルーツは、歴史の中で消滅した修験宗の小淵不動院らしい。「鷺神社」の“サギ”への改名由来は不明だが、神仏分離令対策と推察される。

他方、向かって右側は、杉戸町管轄で、鷺宮神社拝殿修復記念碑が建立されている。碑の傍に杉戸町教育委員会の説明看板が立てられている。『春日部市と杉戸町の境なのだろうか?』、そうではなかった。

看板の説明によると、「鷺神社 祭神 天穂日命(あめのほのひのみこと) 祭儀 例祭十月十九日 当社は春日部市内の杉戸町の飛び地にあり、境内中央より右側が杉戸町本郷の氏子が管理する鷺神社で、左側は春日部市小淵の氏子が管理する鷺神社である。鳥居の額に二社の社名が並記されており、拝殿及び本殿は板壁によって左右に仕切られている。一棟の中にそれぞれの御神体が祀られている。元旦には、両社の総代が集まり運営の相談をしている。杉戸町教育委員会」とある。

拝殿の格子越しに覗くと、なるほど、真ん中が板壁で仕切られ、各々に神棚が祀られている珍しい作りだ。いろいろいきさつから、一宮二社の形式になったのであろう。その詳細は不明だ。鷺神社の説明には祭神が明記されているので、村の氏神だったのだろう。鷺神社の方は、記念碑に、古の「祭神詳ならず」、「明治元年の神仏分離までは小淵不動院の支配(中略)、社名を鷺神社と改め(後略)」の伝承から、歴史から消えた修験宗の小淵不動院の支配下ながら、明治初期の神仏分離の災難を乗り越え、今日に至っているらしい。

余談ながら、街の散策で気が付いたことは、春日部市には、寺院や神社が多い。『どのくらいあるのだろうか?』、と思い調べてみた。春日部市編集『新編目録 春日部市の歴史』平成28(2016)年3月・第四節「村・町信仰と文化」・第一項 春日部の寺院と第三項 神社の分布」から引用する。

「江戸時代の市域には、数多くの寺院が分布していた。その多くは、近世初頭の天正末年から寛永期頃に創建された寺院である。寛永期頃(1624~45)に幕府によって把握された寺院は、当時の『諸宗末寺帳』に記載されていたが、公的に把握されていない寺院も存在していた。(中略)寺院一覧 村名63 宗派7の寺院105 (中略)、村々に祀られる神社は、人々が生活を送る中で感じる不安の解消を期待されて勧請された。(中略)神社一覧 村名63 系列10の神社148 但し、現在までの存続を示す表ではない、(後略)」とある。これまであまり気にしなかったが、寺や神社の数だけ、各々地域の歴史があることに気がついた。

